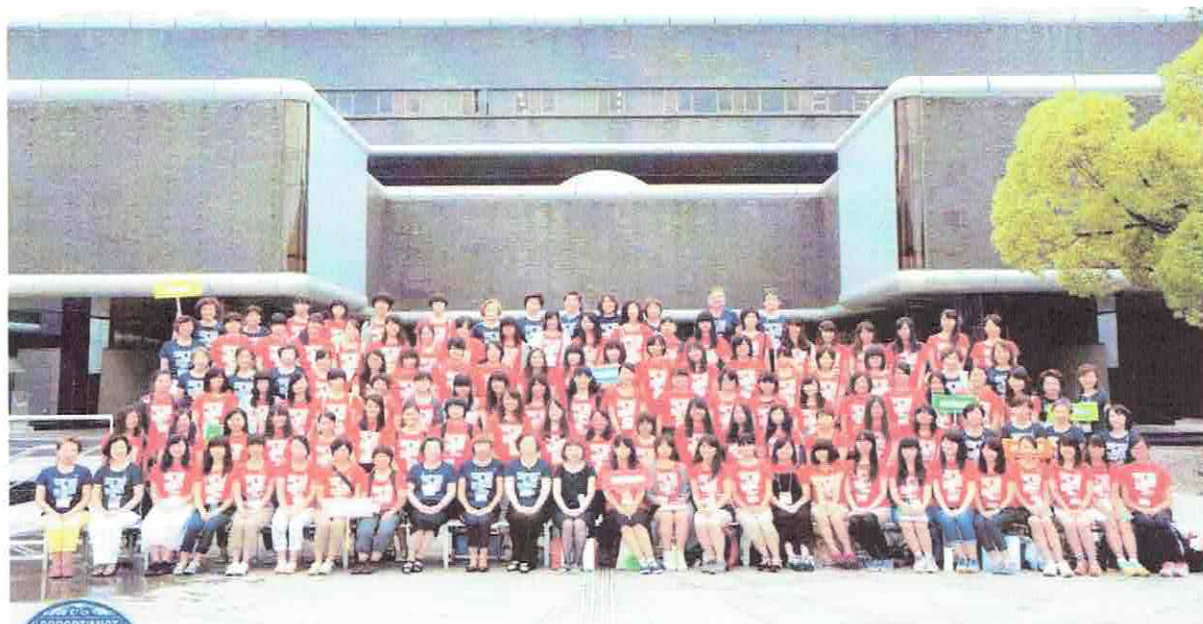


2014年度ユースフォーラム報告書



ソロプチミスト ユース・フォーラム 2015 in 大阪 H27. 7.23 於：国立民族学博物館



国際ソロプチミスト大阪一北 ユースフォーラム特別委員会

委員長 対馬信子 委員 関みさよ 小早川久枝

〒604-0924
京都市中京区河原町二条下ル
ヤサカ河原町ビル3F
TEL (075) 211-1364
FAX (075) 211-1304
E-mail : soroptimist@sia-chuo.gr.jp
URL : www.sia-chuo.gr.jp



№ 12 - I
Yasaka Kawaramachi Bldg. 3F
Kawaramachi Nijo Sagaru
Nakagyo-ku, Kyoto
604-0924 JAPAN

2015年8月3日

クラブ会長
会員各位

リジョン ユース・フォーラム特別委員会
委員長 井植 豊子

「ソロプチミスト ユース・フォーラム 2015 in 大阪」ご報告と御礼

テーマ “夢を実現しよう” —女性と女兒に輝く未来を— 世界における女性の生き方

緑豊かな万博公園の一角 国立民族学博物館にて7月23日、24日と2日間にわたり開催しました「ソロプチミスト ユース・フォーラム 2015 in 大阪」は、代表高校生 97名、ソロプチミスト 225名、事務局員を含め総勢 330名がご参加いただきました。

一日目は悪天候の中でのスタートとなりましたが、国立民族学博物館の須藤健一館長のご挨拶も頂戴し、民族研究社会学部小長谷有紀教授により「世界で活躍する女性達」と題してご講演を頂きました。その後「カタリバ」代表理事 今村久美さんに「ユース・フォーラムに参加して」と題してお話を頂戴しました。又野林センター長による「展示概要」のご説明後に高校生、ソロプチミスト会員は博物館の展示品を見学し、世界中の文化を肌で感じて頂きました。そののち7グループに分かれ、高校生によるディスカッションが開催されましたが、小長谷教授のご講演の日本における男女格差の問題、先進国の中で大変遅れている日本の現状、又今村さんのお話しも刺激になったようで当初緊張していた高校生も、活発な意見を交わし大変盛り上がりました。

二日目は、早朝よりの出発でしたが、お天気も回復し、関西大学にて数々のプログラムを体験いたしました。炎天下の中ではありませんでしたが、最初に関西大学体育会馬術部によるデモンストレーション、そして約30名の体験馬術、又多くのソロプチミスト会員にも馬と触れ合う機会をお持ちいただきました。その後同じ敷地内にあるアイスアリーナにて、日本アイススケート連盟強化選手3名によるフィギュアスケートのデモンストレーションを拝見することが出来ました。当初アイスアリーナの見学のみの予定でしたが、素晴らしい3名のフィギュアスケートに高校生から大きな歓声があがっておりまして。

その後民族学博物館にて2回目のグループディスカッションが開催され、さらに活発なテーマに沿った意見が続出し、私たちソロプチミストも大きな刺激を頂戴しました。

今回はテーマもひとつに絞り、又ご講演頂いた内容もそれに即したお話で、代表高校生によるディスカッションも的を絞りこみ、しっかりと活発にすべての代表高校生が意見や提案を出され、このまま延長してディスカッションを続けてもらいたいと思うほど充実した内容でした。

続いて、小長谷先生を審査委員長として、リジョン役員も共に審査を行いました。小長谷先生によるご講評では各グループ甲乙つけがたく、とてもしっかりとした意見を持ち、「将来日本の男女格差の問題も解決していくであろう」と期待できるとお褒めの言葉も頂戴することが出来ました。当初最優秀賞

は1グループの予定でしたが、2グループに決まり選ばれたグループ各自に図書券を贈呈致しました。

今後の彼女たちの人生に大きな力となる有意義なユース・フォーラムであったのではないのでしょうか。高校生と共にソロプチミストも夢を実現させ、日本の将来も輝く未来へとなることを祈りたいと存じます。

又今回は、宿泊がホテル阪急エキスポパーク、千里阪急ホテルと2ヶ所にわかれ、会場までバス移動等、団体行動となりました。今年度も少人数のスタッフ、又事務局員も3名となりましたので、創意工夫、効率的運営を目指しましたので、不行き届きな点が多々有ったと思いますがソロプチミストの皆様のご協力に感謝すると共に厚くお礼申し上げます。

7月23日(火)

- | | |
|---------------|--|
| 11:30 ~ 12:30 | 登録・受付 (国立民族学博物館) |
| 12:30 ~ 12:50 | 開会式 (国立民族学博物館講堂) |
| | オリエンテーション |
| 12:50 ~ 13:40 | 講演 小長谷有紀氏 「世界で活躍する女性たち」 |
| 13:40 ~ 14:00 | 今村久美氏 「ユース・フォーラムに参加して」 |
| 14:00 ~ 14:15 | 野林厚志氏 「展示概要について」 |
| 14:15 ~ 15:00 | 国立民族学博物館見学 |
| 15:10 ~ 16:50 | 第1回グループディスカッション
7グループに分かれ、テーマに基づく
*ディスカッション終了後、ホテルへ移動、チェックイン |
| 18:30 ~ 20:30 | 夕食 (ホテル阪急エキスポパーク)
夕食後、各部屋へ |

7月24日(水)

- | | |
|---------------|---|
| 6:30 ~ 7:30 | 朝食 *朝食後、チェックアウトし荷物を持ってバスで |
| 7:45 | 関西大学馬術部 馬場へ出発 |
| 8:30 ~ 10:00 | 馬術部デモンストレーション・乗馬体験(高槻キャンパス馬術部馬場)
アイスアリーナ見学 |
| 10:15 ~ 11:00 | 国立民族学博物館へ移動 |
| 11:15 ~ 12:45 | 第2回グループディスカッション |
| 12:50 ~ 13:30 | 昼食 |
| 13:40 ~ 14:50 | 各グループの代表高校生による報告とディスカッション (国立民族学博物館) |
| 14:50 ~ 15:25 | 選考・講評・最優秀グループ発表 |
| 15:25 | 閉会式 あいさつ |
| 15:30 | 解散 |

★ クラブより { 深井会長、大馬委員長が主要プログラム立合い
島津会員、小早川が全日程立合い
7/23 朝誘導係: 深井、五百蔵、関、黒田、島津、
松岡、小早川 各会員。



ソロプチミスト ユース・フォーラム 2015 in 大阪 H27. 7.23 於：国立民族学博物館



ソロプチミスト ユース・フォーラム 2015 in 大阪 H27. 7.23 於：国立民族学博物館 053

クラブ代表 木村さんディスカッション

世界における女性たちの生き方

死人の影を見たことがある人間はどれくらいいるだろうか。小学校の授業で「燃える8月の朝、影まで燃え尽きた」という歌詞の歌を知り、先生から「燃え尽きた影」を平和資料館で見ることができると聞いた私は母とそれを見に行つた。影の人物が何を考えていたのか想像することしか出来なかつたが、そこには人影らしきものが確かにあり、小学生ながらに恐怖を感じた。私の夢は、世界の人の意識改革を起し、世界で数少ない核兵器を放棄している一国日本の意見を伝え、政府への助言をする研究者として海外の国際機関へ働きかけることだ。原爆の被爆者もさることながらナチスの迫害によって家族を失つた生存者、イスラム国に子供を殺された母親などの戦争に対する悲痛な思いを次世代へ伝えたい。テクノロジーを行使して、核兵器保有国などへ被害者の思いを伝え、世界の人が抱える戦争への考え方の差を無くしていこうと思う。そして政府に人々の思いと改革を訴えることが私の最終的な目標だ。現在でも戦争の後遺症、家族を失つた悲しみに苦しんでいる人がいる中、同じ悲劇を繰り返さないためにも理解を教科書の中だけで留めるわけにはいかない。

周知の通り、広島での平和教育はとても熱心である。小学校1年生の時から毎年8月6日には黙祷をし、原爆体験者の方の話の聞き、原爆の映画を見て感想文を書いていた。そんな徹底された平和教育を7年受け、中学1年生の秋にタイへ移り、インターナショナルスクールに転校した。ある日、外国人の友達から日本のどこから来たの?と聞かれ、広島だよと答えると

「radiation(放射線)?」と返されたことがある。私はこの返答に戸惑いを覚えた。世界の人から見ると広島=radiationという認識なのだ。私が受けた平和教育はradiationではない。毎日広島の地元紙が報道している平和は全く世界に伝わっていないのだ。世界の人と日本人の平和に対する考え方の深いギャップを実感した。

研究者になるため、私はイギリスの大学へ進学し平和学を専攻する。平和学は、争いが絶えない世の中の下で生まれた新しい学問であるが、私はそれを学び世界平和、核廃絶の実現のためへの理解を深めたい。また、長期休暇を使って海外へインターンシップをして様々な視点からの戦争の記録を取つたり、現地で日本語を教えたりして私なりにできることを探すことから始めていく。さらに来年にはいろいろな国籍の友達に彼らの目線から見た戦争や平和について語ってもらい、それを一つのビデオにしてインターネット上に載せ、国による戦争の捉え方の違いを世界の人に伝える計画を立てている。また高校生の中に、私の学校の付属のインターナショナルスクールに通う小学生に平和教育をし、広島から見た戦争を伝え、考える機会を与える一端を担いたいと考えている。世界は平和への理解によって大きく歩みあえるだろう。

以上

木村さゆ 作文